

行政視察等報告

(会派 公明党)

<視察目的>

全国的に超高齢社会を迎え、認知症になっても、住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちづくりが必要になってきたなか、「ユマニチュード」という認知症コミュニケーション・ケア技法を推進している福岡市の事例を学び、認知症の人にやさしいまちづくりを推進していく事を学ぶため。

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
令和6年 9月28日 (土)	福岡県福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号	あいれふホール	第6回日本ユマニチュード学会・福岡総会 ・高島宗一郎福岡市長による大会長講演 ・基調講演「日本におけるユマニチュードの歩みとこれから」 ・教育セッションⅠ「地域におけるユマニチュードの効果」
令和6年 9月29日 (日)	同上	同上	・教育セッションⅡ「認知症当事者が活躍する社会を目指して」 ・シンポジウム「ユマニチュード実践者による事例報告」 ・ユマニチュード考案者 イヴ・ジネスト氏による講演

<視察概要報告>

第6回日本ユマニチュード学会・福岡総会

●主催者

一般社団法人日本ユマニチュード学会

●テーマ

「自治体とユマニチュード～社会基盤としての実践～」

9月28日(土) 9:00~15:00

◇大会長講演 「FUKUOKA NEXT~人生100年時代を見据えたチャレンジ~」
福岡市長 高島宗一郎氏

◇基調講演 「日本におけるユマニチュードの歩みとこれから」
日本ユマニチュード学会代表理事 本田美和子氏

◇教育セッションI 「地域におけるユマニチュードの効果」
厚生労働省健康・生活衛生局総務課 課長 吉田一生氏
日本ユマニチュード学会認定チーフインストラクター 安武澄夫氏
福岡市ユマニチュード地域リーダー 上坂美紀代氏

〈考 察〉

大会の開催市である福岡市は、人生100年時代を見据え、誰もが心身共に健康で自分らしく活躍できる社会をつくるプロジェクト「福岡100」を推進されています。今回の大会長は福岡市の高島市長でしたが、市長は、福岡市は「福岡100」の一環として認知症の人やその家族がいきいきと暮らせる、認知症に優しいまち「認知症フレンドリーシティ」を目指してさまざま



な取り組みをしている様子をお話されました。特に、取り組みの柱に据えているのが「ユマニチュード」という認知症のコミュニケーション・ケア技法です。このユマニチュードはフランスで生まれた45年の実績を持つ知覚・感情・言語による包括的ケア技法で、ケアをする人は相手の能力を奪ってはならないと言う原則のもと「あなたは大切な存在です」と伝えるための技術で、誰でも学んで実践することができます。福岡市は2018年度に自治体としては世界で初めてこの技法を導入し、家族介護者や高齢施設等の専門職を初め、地域の方や児童・生徒など、この技法について受講される方に応じた講座を展開されています。

その取り組みの様子をいきいきと話してくださった高島市長のご挨拶は素晴らしかったです。私も今回この大会に参加してユマニチュードについて学びましたが、これに取り組むことでここまで一人の人間が変わっていきけるのだと少し驚きました。福岡市が市民あげて認知症対策に取り組まれていて認知症に対してとても優しいまちである事がよくわかりました。またそれが子どもたちにも伝わっていくことで、これからの福岡市はユマニチュードの効果がさらにあらわれ、ますます認知症に優しいまちづくりができるものと思います。ぜひとも、安来市でも取り組みを始めていけたらいいと思います。とても参考になりました。

9月29日(日) 9:30~15:30

◇教育セッションⅡ 「認知症当事者が活躍する社会を目指して」

経済産業省ヘルスケア産業課 課長 橋本泰輔氏
福岡市認知症フレンドリーセンター長 党一浩氏
株式会社シニアライフカンパニーフェリオ運営部副部長 池上清人氏
介護付有料老人ホームフェリオ百道ホームマネージャー 佐藤光一氏
西部ガス株式会社営業計画部リビング推進グループマネージャー 縣隆歳氏

◇シンポジウム 「ユマニチュード実践者による事例報告」

国立病院機構東京医療センター総合内科・感染症内科医長 片山充哉氏
社会福祉法人大翔会理事長 渡邊利章氏
福岡市副市長 荒瀬泰子氏

◇公開市民講座

ユマニチュード考案者 イヴ・ジネスト氏講演

〈考察〉



2日目は、ユマニチュード考案者「イヴ・ジネスト」先生による市民公開講座が行われました。

「人間にとっての空間と時間と人生」との題名で基調講演が通訳を介して行われました。

なかでも印象に残ったのは、ベッドでいつも奇声を上げて周囲をこまらせている認知症の高齢女性の介護をユマニチュードの技法を使ってジネスト先生がはなしかけら

れると、女性の顔が穏やかになり、着替えなど素直に応じられるようになりました。まるで魔法にかかったかのような様子でした。このユマニチュードの技法は、「あなたのことを大切に思っています」と伝えるために「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱のもと、認知症の人に確実に情報を伝えていきます。この4つの思いがあれば、どなたにも相手を大切に思う気持ちが出てくると思います。この高齢女性を変えたのは、ジネスト先生のあなたのことを大切に思っているという気持ちが人一倍大きかったからではないでしょうか。

介護する側が意識を変えて介護することによって介護される認知症の人の表情が穏やかになります。穏やかになれば介護している方もうれしくなります。このように思いが伝わることでお互いがとてもスムーズな関係を築くことができ、物事も進めやすくなると思います。

今回2日間にわたり多くのことを学ばせていただきました。

ユマニチュードという言葉も内容も知りませんでしたが、我が党の女性局の研修で、日本ユマニチュード学会代表理事の本田美和子先生のお話を伺い、ぜひとも勉強したいと思っていたところ、第6回日本ユマニチュード学会・福岡総会が開催されると知り、参加させていただきました。

福岡市は健寿社会をめざす制作プロジェクト「福岡100」が始まり、その中の期間事業としてユマニチュードを採択され今、7年目になるとのことです。市長自ら「健寿社会の実現のために、ユマニチュードの観点からどんなことができますか？」と本田先生に尋ねられたそうです。そこから介護をしている家族への支援、高齢者に優しいまちづくり、救急隊員へのユマニチュードの導入を提案され今、それらが現実のものとなってきているとのこと。何事も持続することが大事だと思いますが、私は、このユマニチュードの技法を学ぶことにより、認知症に優しいまちづくりができることは間違いないと思っています。今後の認知症対策に活かしていきたいと思っています。とても貴重な勉強をさせていただきました。